

2018年7月23日掲載

喫煙

免疫低下 歯周病進行も

喫煙の健康被害はよく知られているところですが、口の中の病気とのつながりについてはあまり知られていないようです。

肺などの呼吸器と同じように、口の中の粘膜や歯ぐきからたばこの煙の中のニコチンをはじめとする有害物質が吸収され、さまざまな悪影響を及ぼします。

その悪影響の一つは歯ぐきの中の毛細血管の収縮で、血行障害を引き起こします。また、たばこの有害物質は免疫機能を低下させるため、歯周病の原因菌と戦う力が弱くなり、たばこを吸わない方に比べて歯周病にかかりやすく、症状が進みやすくなります。

それらが影響し、歯周病にかかっていることを示す一番のサインである、歯ぐきが赤く腫れ上がり、出血しやすくなるなどといった炎症症状が隠れてしまいます。そのため、本人が気づかないうちに歯周病が進行してしまうという、やっかいな特徴を示します。こうしたことから、歯周病の早期発見、早期治療には「禁煙」が大切といえます。

また喫煙者は、抜歯や歯ぐきの手術、インプラント手術後などの傷口の治り具合が悪くなるほか、舌の表面や味の感じ方の異常、独特の口臭、前がん病変（がんの前段階の異常）や <sup>こうくう</sup>口腔がん発症率が高まることなどが知られています。歯周病以外の予防にも禁煙は必要な条件になります。